

2023/09/22開催 いけんひろば  
～こども家庭庁予算について～

フィードバック資料

# 開催概要

<b>テーマ</b>	こども家庭庁予算について
<b>担当省庁</b>	こども家庭庁
<b>開催日時</b>	令和5年9月22日（金）18:00～20:00ごろ
<b>開催場所</b>	Webex（オンライン）
<b>テーマの中身 （詳細は次ページ）</b>	<p>○A・Bテーマ共通</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概算要求全体像</li> </ol> <p>○Aテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. こどもの居場所支援</li> <li>3. こども食堂支援</li> </ol> <p>○Bテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. こども政策DX</li> <li>5. こどもデータ連携</li> </ol>
<b>参加対象者</b>	<p>○Aテーマを話すグループ          ぷらすメンバーのうち、小学生年代～高校生年代</p> <p>○Bテーマを話すグループ          ぷらすメンバーのうち、高校生年代以上</p>
<b>参加人数／グループ数</b>	<p>○Aテーマを話すグループ          10名 / 2グループ</p> <p>○Bテーマを話すグループ          14名 / 3グループ</p>

# テーマと質問内容の詳細

#	テーマ		項目	質問内容
	A	B		
1	●	●	概算要求全体像	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども家庭庁予算は、4.8兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。</li> <li>こども家庭庁の予算でやっている事業を知ってもらうために、どのような取り組みが必要だと思いますか。</li> <li>こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。</li> </ul>
2	●		こどもの居場所支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報啓発に関して、どのような広報であれば、効果的だと思いますか。</li> <li>みなさんはこどもの居場所を増やしていくために、国としてどのような支援があると良いと思いますか。</li> </ul>
3	●		こども食堂支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども食堂を知っていますか。</li> <li>実際に、こども食堂に行ったことはありますか。</li> <li>こども食堂は、どのような場所にあると行きやすいですか。</li> <li>どのようなものが必要ですか。（どのようなものが配布されると良いですか。）</li> </ul>
4		●	こども政策DX	<p>①自治体のDX推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市役所や区役所の手続きは、手書きで行う手続きがまだ多くあります。デジタル化やオンライン化などのDXを進めるためには、何が重要だと思いますか。</li> </ul> <p>②こどもDX見本市について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、お父さん・お母さん・先生などが、手続き等で大変そうにしている様子を見たことがある人いると思います。どのようなサービスがあったらお父さん・お母さん・先生などが助かると思いますか？</li> <li>DX見本市にどのようなセミナーやイベントがあったら、盛り上がると思いますか？</li> </ul>
5		●	こどもデータ連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>みなさんは生活で困ったことがあったときに周りのおとなに相談したくてもできないと感じたことはありますか？</li> <li>いじめや不登校、虐待で困ったときに相談できる機関が地域にあることを知っていますか？ ※児童相談所、こども家庭総合支援拠点、こども家庭センター など</li> <li>地域の相談機関などが持っているデータを連携してS O Sを出せないこどもや家庭に支援を届ける取組についてどう思いますか？</li> </ul>

# 目次

1. 概算要求全体像
2. こどもの居場所支援
3. こども食堂支援
4. こども政策DX
  - ①自治体のDX推進について
  - ②こどもDX見本市について
5. こどもデータ連携



今回のいけんひろばで意見をいただいた5つの項目は、こども家庭庁の中にそれぞれ担当する部署があります。この資料では、担当部署が、いただいた意見を、各項目と関係する施策にどのように反映させたか、反映を検討したかを説明します。

「概算要求」とは、各省庁が次年度の予算（お金をいくら何に使ってよいか）の見積もりを財務省へ出すこと、またはその内容のことです。この概算要求についての財務省と各省庁との話し合いを経て、年末に予算案（次の年度にお金をいくら何に使ってよいか）が固まります。

施策の当事者である、こども・若者の意見を聴くことが重要であると考えており、こども家庭庁の概算要求全体像と個別の施策（こども政策DX、こどもデータ連携、こどもの居場所支援、こども食堂支援）について意見をお聴きしました。

## 国の予算を考えるスケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月～
				概算要求を提出	予算編成作業	→		予算案を閣議決定	国会審議、予算成立

皆さんから意見を聴いたのはこのタイミングです！



# 1. 概算要求全体像 に関する意見 (1)

- こども家庭庁予算は、4.8兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。

## 小中学生

4.8兆円が自分たちのために使われている実感はない。保育園や学童のために予算が使われていることは、今回のいけんひろばの事前勉強会で初めて知った。

4.8兆円が自分たちのために使われている実感はない。お金を管理しているのはお母さんだから。児童手当は、お母さんにとっては身近かもしれない。

学校などで、こども家庭庁が活動しているといった話があがってこないし、いけんひろばについてもこども家庭庁のイベントを通じて知った。もう少し時間が経ったら実感できるかもしれない。

## 中高生

実感はないが、中学生とかに月1万円給付しているというニュースを聞いた。嬉しい。

今回資料でもらった「こども未来戦略方針マップ」を見て、お金が使われているんだなと思ったが、自分に直接使われていると思ったことはない。

小学校では教科書が無償で提供されるため自分にお金が使われている実感がわくが、給付金は銀行に振り込まれているだけで身近ではないため、直接的に届くものや普段使うものにお金を使ってもらえると実感がわくと思う。



現在、児童手当は中学生以下に払われており、月1万円給付しているというニュースもこの児童手当のことだと思います。

令和6年10月から、

- ・所得制限（保護者の収入による金額の差）を撤廃（なくす）
- ・支給期間について高校生年代まで延長
- ・第3子以降3万円支給とする

といった抜本的な拡充をするための法案を提出しています。

児童手当は、次代を担う全てのこどもの育ちを支える基礎的な経済（お金の）支援として位置づけられ、こどものために使われることとなっています。そのようなことを、こどもがいる親御さんを含め周知していきます。

現金よりも直接的なサービスの方が実感がわくとのことですが、例えば、幼児教育・保育については3～5歳を無償化（お金がかからないように）しています。

上の2つの取組をはじめ、こども家庭庁で行っていることをよく知ってもらえるように、ホームページでお知らせしたり周知に努めてまいります。



## 1. 概算要求全体像 に関する意見 (2)

- こども家庭庁予算は、4.8兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。

### 高校生・大学生世代

大学生になってから福祉について学ぶことで初めて「ここに予算が使われているのだな」と知った。予算の使い道について、学校の授業など身近での周知が必要だと思う。

高校1年生の履修科目で社会科を選択しない限り、こども家庭庁について知る機会はないと思う。

こども家庭庁自体が認知されていないので、もっと周知していいと思う。学校で社会の授業を担当している先生が国について詳しく、こども基本法などの話もしてくれた。

放課後児童クラブと保育所のどちらにも関わったことがなかったことを考えると、全てのこどもに予算が割かれているのかは疑問だなと思った。こども家庭庁が予算の使い方についてもっと説明してくれればいいと思う。

学校においてこども家庭庁などについて知る機会があることが必要だが、教えられる生徒の側からすると、うるさく感じるかもしれない。学校内外での雑談などフランクな形でこども家庭庁について知ることができるきっかけがあるといい。

高校の授業料無償化がされたとき、私自身が手続きをされていて、授業料を国の予算でまかなってもらっているんだなと思った。そういった経験がない人は、予算が自分のために使われていることを実感する機会がないと思う。

親が給付金の利用申し込をしており、学校から承認通知を受け取ったことで初めて予算が使われていることを感じた。目に見える形で直接お金を渡されることがなければ、実感はわかないと思う。奨学金にもっと予算を充てるなど、変えていったほうがいいと思う。

### 大学生世代～社会人

政府が少子化対策に総力を挙げていることは知っている。自分は大学の授業料減免を使っていないが、教育に関わる内容をもっと手厚く進めた方が、少子化対策の解決につながると思う。



こども家庭庁の予算の使い道や、こども家庭庁のこと、こども家庭庁が行っているこども・子育て支援の政策について、みなさんの身近な周知をどのように行っていくかしっかりと考え、予算の使い方についてもホームページでお知らせしていきたいと思います。

大学等の授業料等減免については、  
・令和2年度より低所得世帯を対象に、授業料等の減免と給付型奨学金の支給を併せて行う「高等教育の修学支援新制度」を実施しております。  
・令和6年度からは、本制度について多子世帯や理工農系の学生等の中間層へ拡大し、さらに令和7年度からは、子供3人以上を扶養している多子世帯の学生等について、所得制限なく一定の額まで大学等の授業料・入学金を無償化することとしております。

文部科学省と連携のうえ、これらの支援策の周知・広報の徹底を含め、高等教育費の負担軽減の着実な実施に取り組んでいきます。



# 1. 概算要求全体像 に関する意見 (3)

- こども家庭庁予算は、4.8兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。

## 社会人

自分の市は児童クラブの予算を頑張って確保しているが、求めているところとずれている。田舎には人がおらず、人を育てる教育や研修もできない。ICTに特化した県の人を1か月だけでも派遣してほしい。

保育所の予算について、分かりやすい加算の仕組みにしてくれた方が申請しやすい。

村に保育所が1つしかなく、国の定めた必要な保育士が足りていない状況であり、**子どもが待機児童になっている**。

幼少期に引っ越しが多く、地域差を感じたので、**保育の地域差を解消してほしい**。

所得制限があるだけで子どもを持つことのやる気がそがれるので、制限をなくしてほしい。

住んでいる市町村に産科がなく、**産科に行くのに1時間かかり、大変**。

私の地域では高速道路を使って30分以内で産科にアクセスできるので、間に合っている。

**保育所に対する費用の使途の見える化**に向けて、事業者が施設ごとの経営情報を都道府県知事に報告することを求めるとともに、職員の処遇等に関する情報について、個別施設・事業者単位で公表することとしております。

**保育士の働きやすい職場環境づくり**のため、ICT、DXの推進、保育補助者や保育支援者の配置などによる保育士の負担軽減、ノンコンタクトタイムスペース確保のための改修費支援などに取り組んでいきます。

「**新子育て安心プラン**」に基づく**保育の受け皿整備**が進められていますが、一部の自治体では多くの待機児童がいる自治体があるほか、待機児童解消された自治体においても、一時的に保育ニーズが高まり、待機児童が急増する事例も見受けられることから、申込者数の動向については今後も注視してまいります。

令和6年10月から、**児童手当については所得制限を撤廃するための法案を提出**しております。

また、令和7年度からは、**子供3人以上を扶養している多子世帯の学生等については、所得制限なく一定の額まで大学等の授業料・入学金を無償化**することとしております。

文部科学省と連携のうえ、この支援策の中学校や高校段階からの周知・広報を含め、高等教育費の負担軽減の着実な実施に取り組んでいきます。

令和6年度より、**遠方の分娩取扱施設で出産する必要がある妊婦に対して、移動にかかる交通費および出産予定日前から分娩取扱施設の近くで待機するための宿泊施設の宿泊費（出産時の入院前の前分）の助成を行う事業を創設**するための予算を確保しています。



## 1. 概算要求全体像 に関する意見 (4)

- こども家庭庁の予算でやっている事業を知ってもらうために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

### 小中学生

学校や役所にチラシを置くのが良いと思う。

YouTubeやTikTokのスキップができない広告に載せるのが良いと思う。

学校で個人にプリントを配るのがよいと思う。実際に学校で配付された文部科学省についてのプリントを持っている。

### 中高生

給付金の使い道についてアンケートを取ってみて、その結果をこどもも大人も確認してはどうか。

予算は限られているため、有効に使うことが大事だと思う。この目的のためにいくら予算を使って、こんな活動をしていますよ、と戦略的に広報することで、大人もこどもも政策を理解できるようになると思う。

SNSは広報の手段として外せないと思う。朝のテレビニュースなどで広報してもらうことが、一番分かりやすいのではないかなと思う。

### 高校生・大学生世代

今こども家庭庁が行っている政策のほとんどは、幼少期のこども向けであり、保護者は政策について知っていても、実際のこどもは知らない。大学の授業料の無償化など、こどもたちが教育を自由に選択できるような政策をとれば、知名度を獲得できると思う。

大学の無償化など、思い切ったことをすれば取組の認知度は上がると思う。ただ、大学の授業料が無償化されると私立大学の人気が高まり、国立大学がつぶれるというような話をしていたため、必ずしもお金をまけばよいという訳ではないと思う。

役所などを通じて、紙の資料を配ることは、お知らせの良い方法のひとつだと私たちも考えています。また、取組を知ってもらうために、こども家庭庁のホームページやSNS、YouTubeなどでの動画でのお知らせも良い方法だと考えています。ぜひ一度、学校で貸与されているパソコンやタブレットなどを使って、**こども家庭庁のホームページ** (<https://www.kodomo.cfa.go.jp/>) に遊びにきてください。

「いけんひろば」で、みなさんからこども家庭庁の予算や事業について、貴重な意見をいただきました。**こども家庭庁のホームページやSNSなどを利用して、「いけんひろば」に参加できなかった方からも意見をいただくことは有意義であると認識しています。こども家庭庁のホームページやSNSなどを利用したこども家庭庁からの広報活動が、より多くの方に届くように引き続き工夫してまいります。**

令和2年度より低所得世帯を対象に、授業料等の減免と給付型奨学金の支給を併せて行う「高等教育の修学支援新制度」を実施しております。

令和6年度からは、この制度について多子世帯や理工農系の学生等の中間層へ拡大し、さらに令和7年度からは、子供3人以上を扶養している多子世帯の学生等について、所得制限なく一定の額まで大学等の授業料・入学金を無償化することとしております。

文部科学省と連携のうえ、これらの**支援策の周知・広報の徹底を含め、高等教育費の負担軽減の着実な実施**に取り組んでいきます。

## 1. 概算要求全体像 に関する意見 (5)

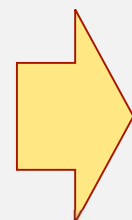
- こども家庭庁の予算でやっている事業を知ってもらうために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

### 大学生世代～社会人

こども家庭庁が何をしているかはこどもの頃から知ってもらう必要があるため、**こどもに焦点を充てていく必要がある**と思う。

こどもにまつわることは文部科学省や厚生労働省も扱っていると思うが、**どこの部署が具体的に進めているのかわからない。こども家庭庁という観点ではなおさらよくわからない。**

予算の4.8兆円というのはかなり大きな金額だと思う。こどものために予算が使われている実感を持つには、**こどもを育てる側の人に、児童手当や出産手当などの各種制度をもっと発信していくことが必要**だと思う。**自分たちの世代が知ることで、こどもたち世代に伝えられる**と思う。



こども家庭庁では、「こども基本法」や「こども若者★いけんぶらす」などをわかりやすく伝えるために、**こども向けホームページを用意**しています。  
**こども家庭庁の取組みや、こどもに関する各種制度については、こども家庭庁ホームページやSNS等を用いて、引き続き情報発信**してまいります。

### 社会人

**YouTubeを面白くして活用**するのはどうか。

**農林水産省のバズマフは面白かった。**今まで興味がない分野であったが、あれがきっかけで見えるようになった。

**こども未来戦略方針マップが目に見える形であると安心する。**ぎりぎりの状態になったらここで助けてもらえるとわかるので、もっと広報した方がよいと思う。

**Instagramをみたが、国の方は積極的な発信をして意欲的であることを初めて知った。**今後は国の方だけでなく、県や市の職員の方々と話す機会や教えてもらう機会が欲しい。



**SNSを用いた広報活動**は非常に有効と認識しております。こども家庭庁でもSNSを用いた広報活動を行っておりますが、こども家庭庁からの投稿が、より多くの方に届くように工夫してまいります。



## 1. 概算要求全体像 に関する意見 (6)

- こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。

### 小中学生

こども未来戦略方針に沿ってこども予算の充実に取り組むことについて「こどもまんなか」という考え方は素晴らしいが、こども一人一人に向き合うのは本当に難しい。

自分は小学生で、**未来戦略マップには高校生の年代まで色々書いてあるため、あまり想像ができない。**

自分は元々いじめられっ子だったが、対応しない学校があるようなので、対応しない学校の教師の教育が大切。

市民に聞き込み調査をして、今書かれていない戦略が出てくれば、それをやってみるといいのではないかな。

学校とこども家庭庁をオンラインで繋げたら、意見を話しやすかった。

学校のクラスの中が一番言いやすいと思う。仲良しの友達もいるから。

**暴力・いじめがない学校がいいと思う。**



令和5年12月に**こども未来戦略**を策定し、

- ・児童手当の抜本的拡充
- ・出産・子育て応援交付金の制度化
- ・こども誰でも通園制度の創設
- ・共働き・子育ての推進

などにより、こども・子育て政策を抜本的に強化することとしています。これらを実施することにより、**全体として3.6兆円程度の充実にし、全てのこども・子育て世帯を切れ目なく支援していきます。**

また、こども未来戦略マップをリニューアルしたので見てみてください。

文部科学省では、学校や教育委員会におけるいじめ防止対策の強化・充実に取り組んでいます。

こども家庭庁では、学校外からのアプローチとして、自治体の首長部局において、専門家を活用し、いじめの相談から解消まで取り組むためのモデル事業を実施することとしています。

これからも、**文部科学省とも協力しながら、社会全体でのいじめ防止対策の強化に努めていきたい**と思います。

### 中高生

少子化が進んでいる中で、子育ての経済的負担がこどもを産まない一番の理由に挙がっており、**所得制限のあり方を今後よく考えていく必要がある**と思う。

こどもにお金がかかる大きな理由の1つとして、こどもの塾の費用があるが、**塾なしで高校や大学に進学出来たら、親の負担が軽くなる**と思う。

**給食費が無料になると、親の負担が少なくなる。**東京都港区では、来年の中学3年生はシンガポールに行くことになっているが、そのお金を他のお金のない区に寄付して給食費を無償にすることはできないのか。

**給食費やこどもの医療費の無償化**は、市町村が独自で進めているが、これらの無償化を国主体で行うことは難しいのか。



令和6年10月から、**児童手当については所得制限を撤廃するための法案を提出**しております。

また、令和7年度からは、子供3人以上を扶養している多子世帯の学生等については、所得制限なく一定の額まで大学等の授業料・入学金を無償化することとしております。

文部科学省と連携のうえ、この支援策の中学校や高校段階からの周知・広報を含め、**高等教育費の負担軽減の着実な実施**に取り組んでいきます。

**学校給食費の無償化**については、こども未来戦略において、全国ベースでの学校給食の実態調査を行い、「こども未来戦略方針」の決定から1年以内にその結果を公表することとしており、実態調査を行った上で、小中学校の給食実施状況の違いや法制面等も含めた課題を整理することとしています。

## 1. 概算要求全体像 に関する意見 (7)

- こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。



### 高校生・大学生世代

こどもを育てている家庭の支援に重点があるが、最近ではこどもを産まずに独身で生活する人も多いと思うので、そういった人も取り残さずにする社会づくりをしたい。

奨学金のお金を借りることで「返さなければいけない」という気持ちになり、自分の負担が目に見える。**中学生などの進路を決める時期から、奨学金について、学ぶ機会があるといい。**経済的な支援をすることによってこどもを産みやすい環境になる。

こどもの支援といっても、予算は小さいこども（0～5歳くらい）を対象にしているのかなと思った。高校生になってからの方が、よりお金がかかっているとのことだったので、**18歳になるまでの期間全体を考えた支援が重要。**

こども未来戦略方針には「今年度から出産育児一時金の引き上げ」とある一方で、高等教育の支援拡充については今年度や来年度の見込に含まれていない。**高校や大学生を対象とした支援があまりにも少ないように思う。**

もっとスピード感をもって、みんなが目に見えて「助けられているな」と思うくらいまで支援する必要がある。

こどもが生まれてから小学校に入るまでの支援が手厚く、そのあとが薄いと意見が出たが、赤ちゃんはか弱い存在なので、支援が手厚いのは妥当なのではないかと思う。

こどもがいかに真ん中であるかが大切であり、**親の支援についても、いかにこどもが真ん中・中心になっているかの視点で進めるかが大切。**

所得を増やすためには、高等教育を受ける必要があるため、**最も注力すべきなのは、授業料の免除**だと思う。

**保育士の方にとっても奨学金がある場合には、返済しながら働くことは酷ではないか**と思った。

こども・高校生の支援だけでなく、それに付随する**教育機関で働く人々の給与の底上げ**などにもこども家庭庁の予算を割り当てていくことはありだなと思った。



これまでも、子ども・子育て支援については**幼児教育・保育の3～5歳児の無償化**などを行ってきました。

今回のこども未来戦略では、これまで比較的支援が手薄だった**妊娠・出産期から0～2歳のこどもに係る支援を実施**するため、出産・子育て応援交付金の制度化、こども誰でも通園制度の創設、共働き・共育ての推進のための施策の充実に実施することとしております。

また、令和6年度から

- ・授業料等減免及び給付型奨学金について、多子世帯や理工農系の学生等の中間層へ拡大
- ・大学院修士段階における授業料後払い制度の創設
- ・貸与型奨学金の減額返還制度の年収要件等の緩和

令和7年度からは、子供3人以上を扶養している多子世帯の学生等については、所得制限なく一定の額まで大学等の授業料・入学金を無償化する

こととしております。文部科学省と連携のうえ、これらの**支援策の中学校や高校段階からの周知・広報を含め、高等教育費の負担軽減の着実な実施**に取り組んでいきます。

こども家庭庁において、**保育士養成施設に通う学生に対し、修学資金の一部を貸付け等する事業を実施**しています。貸付金は、一定の要件を満たした場合は、返済が免除される仕組みとしております。また、保育士等の処遇改善のため、令和5年人事院勧告を踏まえた対応を実施するとともに、民間給与動向等を踏まえた更なる処遇改善を進めることを目指しております。

引き続き、保育士を目指す方や保育士の方を支援していきたいと思っております。

## 1. 概算要求全体像 に関する意見 (8)

- こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。

### 大学生世代～社会人

こども未来戦略方針マップを見たが、自分がこどもを育てることを想像すると、見知らぬ人に攻撃される社会であることが怖い。こどもに関する知識のアップデートや学びなおしを義務化できたらよいと思う。

こどもができたとき、自分みたいな公務員であればまだ安心して育てられるが、派遣社員やパートタイム社員の方であれば、自分の生活のことで手いっぱいになると思う。

夫が産休や育休を取ったとしても、子育ての中心は母親になることが多いと思うので、精神的に追い詰められた時などカウンセリングが受けられる制度や仕組みがあればよい。

マップでは相談員が言及されているが、相談員の人々がどれくらい給料もらっているか気になる。やりがいも大事だが、給料をあげることも大事だと思う。

マップを見ると幅広い世代に方針が充てられている。少子化対策をしていくと謳っている割には、予算金額が十分でないうえ、ターゲットも本質的でないと思った。

マップの始まりが妊娠であることに驚いた。

自分は、正直子育てがどれくらい大変なのかわからず、マップの最初にある「伴走型相談支援スタート」のタイミングで、子育ての大変さや必要な配慮等を知ることができる機会を提供することが大事だと思った。

自分の周りでも、男性が、母親側がどういう状態で子育てしているのかわからないで発言しているのを見かける。高校生や大学生の時点で、知識を得ておくことが大事だと思った。



令和5年12月にこども未来戦略を策定し、児童手当の抜本的拡充、出産・子育て応援交付金の制度化、こども誰でも通園制度の創設、共働き・子育ての推進などにより、こども・子育て政策を抜本的に強化することとしています。これらを実施することにより、**全体として3.6兆円程度の充実にし、全てのこども・子育て世帯を切れ目なく支援**していきます。

また、こども未来戦略マップをリニューアルしたので見てみてください。

**誰もが安心してこどもを産み育てられるよう、(社会全体で) 妊娠期から切れ目なく支援していくことが大事**と考えており、

・妊娠期から出産・子育てまで、身近な場所で相談に応じ、多様なニーズに応じた支援につなぐ「伴走型相談支援」を継続して実施していくほか、

・産後1年未満の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行う産後ケア事業について、支援を必要とする全ての方が利用できるようにするための提供体制の確保に向けた取組を進めています。

## 1. 概算要求全体像 に関する意見 (9)

- こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。

### 社会人

周りに妊活している人が多いが、「お金を貰いたい」よりも「取らないで欲しい」と思っている。

待機児童のことや、休職することもあるかと思うと出費もかさむので産むという選択肢はなく、**経済的な理由でこどもを産むことを考えられない。**

貰える分もあるが取られる部分が多く、**所得制限もあるのでこどもを育てることは割に合わない。**

**保育士の立場からすると無償化にする場合の負担に値するお金を貰っていないと思う。**

**誰でも通園制度は色々課題があるのに、ただやることだけ言われていて不安である。**

**大学の学費の負担が軽くなるならこどもを産むことは考えられる。**

**児童館や児童クラブの先生は非常勤が多いので、常勤職員を増やして様々な業務に対応できるようにしてほしい。**



こども未来戦略において、

- ・児童手当の抜本的拡充による所得制限の撤廃等
- ・月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付（こども誰でも通園制度（仮称））の創設
- ・全てのこども・子育て世帯を対象にライフステージ全体を俯瞰して、切れ目のない子育て支援の充実に図るとともに、共働き・共育てを推進していくための総合的な対策を推進していく
- ・**保育士等の処遇改善**については、令和5年人事院勧告を踏まえた対応を実施するとともに、民間給与動向等を踏まえた更なる処遇改善を進める
- ・**こども誰でも通園制度**については、令和7年度からの制度化に向けて、令和5年度から本格実施を見据えた試行的事業の開始を可能とすることとし、令和6年度も含めた試行的事業の実施状況を踏まえつつ、**制度実施の在り方について検討を深める**
- ・令和6年度から
  - ▶ 授業料等減免及び給付型奨学金について多子世帯や理工農系の学生等の中間層への拡大
  - ▶ 大学院修士段階における授業料後払い制度の創設
  - ▶ 貸与型奨学金の減額返還制度の年収要件等の緩和等を実施
- ・令和7年度から、子供3人以上を扶養している多子世帯の学生等については、所得制限なく一定の額まで大学等の授業料・入学金の無償化の実施する
- ・**放課後児童クラブ**の安定的な運営を図る観点から、令和6年度から**常勤職員配置の改善**などを図るとされており、これらを実現するため、しっかりと取り組んでいきます。

こどもの居場所とは、みなさんが居場所と感じるところが居場所になります。みなさんが居場所と感じられるように、こども・若者の声を聴き、こども・若者の視点に立った居場所づくりを進めることが大切です。

こども家庭庁では、すべてのこどもが安全で安心して過ごせる多くの居場所を持てるように、社会の中によりよいこどもの居場所が広がっていくことを後押しするための方針として、令和5年に「こどもの居場所づくりに関する指針」をつくり、こどもの居場所づくりを進めています。

この指針をつくる時にこども家庭庁で実施したアンケートにおいて、「家や学校以外に居場所がない」と答えたこども・若者に「“ここに居たい”と感じる場所がない理由」を聞いたところ、「そのような場所の情報がない、存在を知らない」と答えた方の割合が高い結果となりました。また、直接お話を聞いたところ、居場所に期待することとして「だれでも見つけられること」「（場所、目的にあわせて）居場所を選べること」といった声がありました。これらを踏まえ、どうしたら地域にある居場所を知ってもらえるか、どうしたら居場所を増やすことができるかについてみなさんに意見を聞かせてもらいました。



いただいた意見を踏まえて、こども家庭庁では、こどもの居場所について、地域の中で居場所となる場所とみなさんがつながることができるように、市町村が行う次のような活動に対して支援を行います。

- ・みなさんが暮らす地域にどんな居場所があるのかなどを調べる
- ・地域にある居場所に関する情報をみなさんにお知らせする
- ・地域に居場所が増えるように、居場所づくりの担い手のサポートする人を配置する
- ・新しいこどもの居場所づくりに取り組む方々を応援する



## 2. こどもの居場所支援 に関する意見

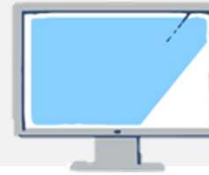
### 効果的だと思う広報のありかたについて

みんなに知ってもらうためには、多くの人が見る場所が良いと思うので、**テレビ広告**等で紹介したらいいと思う。(小学生～中学生)

みんなに知ってもらうためには、小学生がよく見る**Youtube**においてチャンネルを作って発信して、こども家庭庁に関することを紹介したら良いと思う。(小学生～中学生)

最近はTikTok等のアプリがあるが、よく使う**アプリに広告**が出てきたら広まると思う。Youtubeを見ている人が周りには多い。Youtubeの広告はスキップできるので見ない人がいるが、有名なYoutubeとのコラボの広告や、アニメっぽい広告で告知したらいいかもしれない。(小学生～中学生)

多くの人が見る方法を使う



### こどもの居場所の広報活動に係る経費を支援

- ・みなさんが暮らす市町村がこどもの居場所の広報（宣伝）をするときの必要な費用の一部を支援します。
- ・発信する方法に制限はないため、こども・若者の興味関心や地域の実情に応じた方法により活用できます。
- ・こども家庭庁が作ったチャンネルがあるので、ぜひ見てください。



### 居場所を増やすために必要だと考える国からの支援

実際の場所だけでは無い場所も居場所になると思う。自分の学校では、4年生から学童に行けなくなる子がいて、家で留守番をしている子も多いので、**オンラインで集まれる場所**があるとよい。(小学生～中学生)

**地域の中で自分の居場所があると良い**。自分の居場所がいつでもあると安心できると思う。(小学生～中学生)

私の住んでいる地域では、幼児や小学校低学年が遊べる場所は多いが、**中学生や高校生の居場所が少ない**と感じる。**同じ学年くらいの子どもが集まって、自分のしたいことができる**ところが居場所だと思う。(中学生～高校生)

**小学生の学びや遊びの場が少なくなっている**。そこで、私は今年の8月頭に小学生の居場所を開いてみた。小学生が40名程度集まってくれて、高齢者の方が子ども達の宿題を見てくれた。小学生でも中学生でも、こどもの居場所は必要なのだなと実感した。(中学生～高校生)

**学校にゲームなどを置くことはできないのか**。私の学校にある放課後の居場所は楽しいが、人が集まらなかったり、すぐに帰ってしまう人がいたりするため、盛り上げるためにゲームなどを置けないのかなと思った。(中学生～高校生)

自分にあつた居場所が必要



### 地域のニーズ調査等に係る費用を支援

- ・中高生の居場所や小学生の居場所が地域でどの程度必要かなどを調べる費用の一部を支援します。

### 新しい居場所づくりの取組を支援

- ・オンライン上の居場所や、他の地域でも、まねをしなくなるような面白い居場所づくりの経費の一部補助します。学校内の居場所にも使えます。

### 居場所づくりをサポートするコーディネーターの配置等の支援

- ・地域で居場所を作りたい人や今の居場所をよりよくしたい人をサポートする人を配置するのに必要な経費の一部を支援します。
- ・新しい居場所を作るのに必要な費用の一部も支援します。



こども食堂とは、こどもが一人でも行ける無料または低額の食堂です。認定NPO法人むすびえの調査によると、こども食堂の数は増加の一途をたどっています。

こども家庭庁では、「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」などの補助金を通じて、こども食堂に対し、支援を行っていますが、こども食堂がこどもたちにとって、よりよい場所となるためには、どういった視点が必要であるかを当事者となるこどもたちに聞いてみたいと思い、いけんぷらすで取り上げました。



#### こども食堂について知っていること

こども食堂は、家がなく食べ物がないこどもに、**ご飯を無償で提供している場所**だと思う。（小学生～中学生）

こども食堂では、家では宿題をする時間がないこどもが**宿題や勉強をすることもできる**。（小学生～中学生）

私の住んでいる市区町村には、**高齢者施設に行き、高齢者と触れ合いながらこども食堂をやるという企画がある**。こども食堂をやる前に高齢者と触れ合うことができるため、この企画の参加者は、高齢者施設で働いている職員にも興味を持つかもしれないと思った。（中学生～高校生）

私の地域には、こどもの居場所として、**寝泊りができるこども食堂がある**。家ではない居場所としてこども食堂がある。お金はかかると思うが、安い値段で泊まれると思う。（中学生～高校生）

こども食堂では、食事の提供だけでなく、様々な活動が実施されているのではないかな。

こども食堂には、食事の提供に加えて、勉強や宿題をしたり、みんなで遊んだり、様々な体験を提供したりしているところもあります。



### 3. こども食堂支援 に関する意見

#### どのような場所にこども食堂があると行きやすいか

家の近くにあると行きやすく楽だと思う。(小学生～中学生)

駅や大型ショッピングモールの近くにあると行きやすい。

(小学生～中学生)

こども食堂は誰でも行っていいものであるが、それを知らない人が知った時には「この人は親がいないんだ」と思われてしまうので、あまり人目に付かない場所にあった方が行きやすい。(小学生～中学生)

こども食堂についてあまり知らない人は、生活困窮者が利用するイメージが強く、自身が利用するハードルが高いのではないかと思うため、そのハードルをなくすことが大切ではないかと思う。学校や家などに、「誰でも利用できます」と目立つように記載したこども食堂のチラシを配ることで、利用者が増えるのではないか。(中学生～高校生)



物理的にも、心理的にもこどもたちが行きやすい場所になっているとよいのではないか。

こども食堂が、こどもたちが、徒歩や自転車で行くことができるような距離にあることや、誰でも利用できる場所であることを、こどもや家族にしっかりと伝えるようにすることが大切だと思います。



#### こども食堂で必要なもの

出てくるご飯はこどもに人気があるものだとよい。地域の食材を地産地消できる料理を作してほしい。(小学生～中学生)

健康のために野菜ジュースや、他にも問題集・マンガがあると良いと思った。(小学生～中学生)

キャラクターやアニメグッズがあれば、自分も行ってみたいと思う。(小学生～中学生)

災害があった時に、備蓄用の水や保存食などを配ったら良いのではないかと思った。(中学生～高校生)

私の住んでいる地域では、「こども食堂」と「だれでも食堂」というがある。「だれでも食堂」では、その場で食べることも食べ物を持って帰ることもできて、誰でも使える。(中学生～高校生)

こども食堂には行ったことがないが、文房具などを配ってくれると利用者が増えると思う。中学生になると、文房具に拘る人が増えるため、「あそこに行くと文房具がもらえるよ」となると、利用者が増えると思う。シャーペンや消しゴムなどが魅力的だと思う。(中学生～高校生)



こどもたちが興味を持てるものがあるとよいのではないか。

こども食堂では、こどもたちが楽しめるような行事・イベントなどを開催しているところや、必要なこどもたちに食料品や文房具を配布しているところもあります。



こども政策DXとは、こども・子育て政策においてデジタル技術を積極的に活用することで、子育て家庭等の手間や負担を軽減し、こどもと向き合う時間を増やしていくことです。

※DX（デジタルトランスフォーメーション）：進化し続けるテクノロジーが人々の生活を豊かにすること。

こども家庭庁では、「こども政策DX推進チーム」を立ち上げて、子育て家庭の事務負担を軽減するための取組みと、保育所などの子育て関連事業者や地方自治体などの事務負担を軽くするための取組みの2つの側面から取り組んでいます。

こどもや子育て家庭などの当事者の視点に立って、この分野における取組を推進していくため、デジタル化やオンライン化などのDXを進めるにあたって何が重要だと考えるか、ご意見を聞かせていただきました。



令和6年度には、こども・子育て分野におけるデジタル技術・サービスを提供する事業者と地方自治体等との協働・連携を推進するために「こども政策DX見本市」を開催する予定です。

「どのようなサービスがあったら子育て当事者が助かると思うか」「どのような企画があったら見本市が盛り上がるか」、皆さんの意見を聞かせていただき、見本市の企画に反映していきたいと考えております。



### デジタル化やオンライン化などのDXを進めるために重要なこと

#### DXへの理解

上層部になるとITを嫌う方は保育業界に多い。(社会人)

オンラインに否定的な上の世代の理解を得ることが必要。(大学生～社会人)

国民がミスを許すという雰囲気をもっと作っていかないと、ITが発展しないと思う。(大学生～社会人)

行政のつくるサービスはUIが悪いイメージなので、デジタル化に後ろ向きになる気持ちは分かる。(高校生～大学生)

#### リテラシーの向上

職員の中にはITリテラシーが低く、パソコンが苦手な人もいます。また、ITリテラシーをあげる教育の場が少なく、個人情報の観点から準備に2,3年かかる。(社会人)

情報の見分け方などについての教育をしっかりとってから、デジタル化することが必要。(高校生～大学生)

#### DX特区の設置

DX特区をつくるのも面白いのでは。例えば、IT関連の企業で働きPC操作に慣れている方が多いエリアで試験的にデジタル化をして改善点を練るのもよさそう。(高校生～大学生)

#### アナログとの併用・段階的な導入

紙媒体からデジタル媒体に変える手間もすぐかかるだろうし、変えるときにはミスが多くなりそう。段階的に変えることも視野にいれることが重要だと思う。一気にデジタル化をすると、情報が埋もれて分からなかったり、嘘と本当を見分ける力がまだ足りていなくなったりする。(高校生～大学生)

オンラインが得意な人もいれば、アナログで今まで通りの手続きをするのに慣れている人もいます。いろんな人を想定することが必要で「完全にアナログでの手続きは辞めます」とするのは良くないと思う。(高校生～大学生)

#### 制度・運用上の課題

システム導入を検討する立場にいますが、企業のシステムを公共領域で導入するのは難しい。予算や補助金はあるが制度が複雑なので簡単に使えない。(社会人)

情報漏洩などの問題が生じた際に誰の責任を問うのかに注力するのではなく、問題が生じた際の対処方法を考えるなどリスク管理をする前提でと検討していくことが大事。(大学生～社会人)

様々な立場、観点でのご意見をありがとうございます。DXを進めるためには、全ての人が参加しやすい環境を作ることが大切です。

誰もがデジタル化のメリットを享受し、社会全体が持続可能な発展を遂げるためには、みなさまがあげてくださったような課題、ひとつひとつと向き合っていく必要があります。

こども家庭庁では、子育てをもっと楽しく、安心して行えるように、そして便利にするためにこども政策DXを推進しています。

ご指摘いただいたことを解決するためには、官民連携が不可欠です。

令和6年度は、様々な自治体、民間事業者に参加して頂く取り組みとして、具体的なモデル事業の実証や、子育て分野での生成AIの利用に関する調査研究などを予定しております。



## 4. 子育て政策DX・見本市 に関する意見

### みんなが助かるサービス

#### 自治体窓口について

ちょっとした申請であれば、デジタルでも判子に代わる自分のサインのようなものを使えるようになれば良いと思う。(高校生～大学生)

平日の仕事終わりに手続きに行きたくても役所が開いていない。週のうち平日のどこかのオープン時間を伸ばすのもいいのではないだろうか。(高校生～大学生)

スマホで簡単に手続きできたり、自治体が持っているデータの提出を不要としたり、オンライン上で一括して手続きを進められたりすれば、迅速なこども支援につながると思う。(大学生～社会人)

#### 教育・保育施設について

ICT化によって保育園だけではなく、小学生～高校生までデータを引き継げることができれば良い。こどもの次の学校に送る書類(要録)を作るのが大変であり、データで引き継げるならば見返せるので良いと思う。(社会人)

書類のフォーマットは国も決めているが、教育・保育の現場では使いにくいフォーマットで来るので、地域にあうように手直しが必要になっていく。アンケートのような選択でフォーマットを選べるともっと楽になると思う。(社会人)

園のシステムが統一されると、他の園に移動しても対応できるので慣れれば楽だと思う。園によって書類が違うこともあるので、ICT化で管理しやすきたい。(社会人)

どのようにしたらこどもや子育て家庭などが情報に素早く、簡単にアクセスでき、行政手続きをストレスなく行えるようになるか、様々なご意見をありがとうございます。

みなさんの関心に沿った分野での展示が充実するよう、見本市に出展される事業者の選定に取り組んでまいります。

### DX見本市を盛り上げる方法

#### コンテンツについて

外部のSNSや動画を駆使してビッグデータなどの専門家が世間に解決策を周知するようなセミナーなどがあると、バズって国も新しい方法を発掘できるかもしれない。(大学生～社会人)

一方的にデジタル化について話されているだけだとつまらないので、自分もゴールをつけて体験することなどができるといいと思う。(高校生～大学生)

専門外の人に来ないのであれば、見本市に面白い要素は求めず、自治体の人にとってわかりやすい説明を追求すればいいと思う。(高校生～大学生)

#### 開催方法について

メタバースのように、仮想空間で自分が自由に歩き回れるような見本市であれば、遠くにいっても目的を果たすことはできると思う。(高校生～大学生)

現地参加とオンライン参加では情報の受け取り方が違うので、両者の差異を埋められたらと思う。オンラインだと講演の配信などに限定されていて勿体ない。(大学生～社会人)

地方に住んでいると交通網がなかったりして対面のイベントに参加しづらいので、地域ごとにイベントを開催してできるだけ対面で参加できるようにしてほしい。(高校生～大学生)

見本市が盛り上がりそうな様々な取り組みを提案いただきありがとうございます。来場者の皆様にとって有益なものとなるよう、講演・セミナーやワークショップ等の開催を検討しております。

対面での参加が難しい方にもご参加いただけるよう、会場開催及びオンラインでの開催の混合方式を予定しております。

こどもデータ連携とは、地方公共団体の色々な部署で持っている、こどもや家庭のデータを、分野を超えて連携させることを通じて、潜在的に支援が必要なこどもや家庭を早期に発見し、プッシュ型・アウトリーチ型の支援につなげる取組みです。

こども家庭庁では、住民に身近な地方公共団体において、個々のこども・若者や家庭の状況や支援内容等に関する教育・保健・福祉などの情報・データを分野を超えて連携させることを通じて、潜在的に支援が必要なこども・若者や家庭を早期に把握し、SOSを待つことなく、プッシュ型・アウトリーチ型支援を届けることができる取組を推進しています。

困ったことがあったとき相談できているか、相談できないのはなぜかを聞き、相談やSOSを待つことなくプッシュ型・アウトリーチ型で支援できることを目指したいと考えています。また、地方公共団体や相談機関などが持つこどもや家族の情報を連携することで、潜在的に支援が必要なこどもや家族を早期に発見して支援を届けられるこどもデータ連携の取組について、率直な意見を聞き、今後のガイドラインの作成の参考にしたいと考えています。



### 相談できない理由について

【相談したいと思わない】大人への信頼を失くすもっとも大きな要因・きっかけは、小さなアプローチを教員などの大人にしたときに、気づかれないことだと思う。(高校生～大学生)

【相談できるという認識がない】こどもが、自分が相談をしてもいい対象だと認知することが大切。相談機関が地域にあることを知っていても、相談していいのだと思っていない人がいる。(高校生～大学生)

【相談できる環境でない】スクールソーシャルワーカーという専門職がいるが、私が住んでいる地域では2～3校あたり1名程度しかいない。(高校生～大学生)

【相談したが解決しなかった】学校でこども人権SOSの案内が配布されていたのでお手紙を書いたら、その返信が何の解決にもならない「がんばってね」というようなものだった。(高校生～大学生)

【その他相談に関する提案】気が向いたときに話せるインターフェースのようなものがあればよいと思った。(高校生～大学生)



- 相談できる場所を必要な方に知らせる仕組み（プッシュ型）の構築を目指します
- 相談を待たずに、困っている方には届けるアウトリーチ型支援の仕組みの構築を目指します。



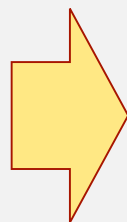
### データ連携について

【データの連携先について】最後のセーフティネットとしては、介入力のある警察などが適切だと感じる。児童相談所に虐待の情報等が入った時点でもっと迅速に警察などに連携することが重要だと思う。(大学生～社会人)

【データの収集について】先生達がこどもの体型や私服から気付けることがあっても、個人情報があるので大事になってしまうと葛藤することもある。そのため、異変に気づいた保育士が状況を言える場所が必要である。(社会人)

【データの活用方法について】問題のあるとされる家庭にのみ訪問するのではなく、一歳検診のように一律で家庭訪問をすれば、発達支援や悩みを聞くことに繋がるだろう。(高校生～大学生)

【データ連携にあたり留意すべきこと】あまりにデータを持ちすぎると、虐待をしている親から「プライバシーの侵害では」と情報を集めることを阻害されるかもしれない。保護者から訴えられないような対策もするべき。(高校生～大学生)



- データの連携先や活用・連携するデータは、適切な連携体制を整えて使えるよう、ガイドラインを作成して示していきます。
- データ連携にあたっては、個人情報の適切な取扱いやプライバシーの保護に考慮して、慎重に取り扱います。
- データを活用して支援する際には、自然なアプローチができるよう、支援の留意点や実証事業の好事例をまとめていきます。

